

平成27年度 終了評価書

- 研究機関 : (株)国際電気通信基礎技術研究所、日本電信電話(株)、
(株)島津製作所、積水ハウス(株)、学校法人慶應義塾
- 研究開発課題 : 脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発(高精度脳
情報センシング技術・脳情報伝送技術、実時間脳情報抽出・解読
技術及び 脳情報解読に基づく生活支援機器制御技術)
- 研究開発期間 : 平成23 ~ 26年度
- 代表研究責任者 : 石井 信

■ 総合評価(5~1の5段階評価) : 評価4

■ 総合評価点 : 24点

(総論)

アイデアや個々の技術開発については期待以上の貢献があり、新しい可能性を示したことも高く評価できるが、新しいビジョンを説得力ある形で提示するまでは至っていない。

(コメント)

- 新しい可能性を示した研究であり、高く評価できる。ただし、社会に応用されるためには、まだ課題が多い。
- データベースの活用の仕方のアイデアや個々の技術開発については期待以上の貢献があるが、新しいビジョンを説得力ある形で提示するまでには今一步である。
- 目標を上回る部分もあり、有効な研究開発であった。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価5

(総論)

国以外が取り組みにくいテーマである高齢者・障害者自立社会の実現に向けて、研究開発の必要性は著しく高まっている。また実社会に直接役立たせようと考えられている。

(コメント)

- 国以外が取り組みにくいテーマであり、将来の発展が期待できる。
- 非侵襲技術を使って直に実社会に役立てようとするかについてよく考えられている。
- データベースを使って汎用性を持たせるかという視点はよい。
- 高齢者・障害者自立社会の実現に向けて研究開発の必要性は著しく高まっている。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

運営委員会等による助言をうけ、適切なマネジメントが行われた。

(コメント)

- アドバイザによる助言を受ける等適正なマネジメントである。
- 実際大きな問題はないが、複数の拠点をうまく統合的に活用しているようにもみえない。
- 運営委員会活動等が有効であった。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

データベースを活用した新しい技術等、目標以上の成果があったが、実用化にはまだ努力が必要。脳情報抽出・解読の遅延時間についてはよりわかりやすく具体的な説明が必要。

(コメント)

- データベースを活用した新しい技術等、目標以上の成果があると判断できる。
- 個々の技術開発に成果はみられるが、それが実用化に達するには、今ひとつ努力が必要と思われる。
- 遅延時間*についてはより分かり易く具体的な説明が必要である。

※ 運営委員会にて、「データ通信と処理のみ」と定義した遅延時間の目標に、計測時間を含む目標を追加した経緯有り。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

報道発表、学会報告等も多く、この分野の研究を広めたプロジェクトとして評価できる。また製品化が行われるなど活動実績があった。さらに一般向けのアウトリーチ活動などにも力を入れていただきたい。

(コメント)

- 報道発表、学会発表等も多く、この分野の研究を広めたプロジェクトとして評価できる。
- 報道発表など積極的に行っているが、より一般的向けのアウトリーチ活動などにも力を入れてほしい。
- 製品化が行われるなど有効な活動の実績があった。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

基礎技術開発の貢献はあるが明確なビジョンを示すまで達していない等、実際に使われるまでには課題が多いが、今後の発展に期待が持てる。

(コメント)

- まだ、実際に使われるまでには課題が多いが、今後の発展に期待が持てる。
- 新しい社会構築のための基礎技術開発には貢献しているが、それを統合して明確なビジョンを示すまでには達していない。